

2021年6月30日

各 位

PayPay 銀行株式会社

投資信託で新たに 50 本のノーロードファンドの取り扱いを開始、 取り扱いファンド数は銀行 No.1 の 580 本！ 業界最低水準コストの PayPay 投信ファンドも追加

PayPay 銀行株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：田鎖智人、以下 PayPay 銀行）では、2021年6月30日（水）より、投資信託で新たに50本のファンドの取り扱いを開始いたします。これにより、PayPay 銀行での総取り扱いファンド数は、580本となり、2019年9月に、都市銀行・ネット銀行・新規参入銀行中 No.1（※1）のファンド数となって以来、さらにその数を伸ばすこととなりました。当社の取り扱いファンドはすべて購入時手数料が無料のノーロードで、つみたて NISA 対象ファンド数も銀行 No.1（※1）の64本。資産運用初心者の方にも始めやすい環境をご用意しています。

新たに取り扱いを開始したファンドについて

6月29日に運用開始した業界最低水準コストを目指すインデックスファンド「PayPay 投信 NASDAQ100 インデックス」を今回新たに追加。運用開始と同時に取り扱いとなる銀行は PayPay 銀行のみです。

そのほかにも、ブロックチェーン、スマートシティなど話題の分野へ投資ができるファンドを取り揃えました。

詳しくはファンド検索ページより「新規販売ファンド」を選択のうえ、ご覧ください。

・ファンド検索

<https://www.japannetbank.co.jp/investment/trust/search.html>

・PayPay 銀行の投資信託

<https://www.japannetbank.co.jp/investment/trust/index.html>

ヤフー株式会社との金融仲介連携の効果

2020年10月、ヤフー株式会社が PayPay 銀行の金融商品仲介業者となり、Yahoo! JAPAN をご利用の方は、「Yahoo! ファイナンス（<https://finance.yahoo.co.jp/funds>）」から、PayPay 銀行で取り扱う投資信託の売買、資産状況の確認をワンストップで行えるようになりました。連携による効果から、現在 PayPay 銀行の投資信託は、口座数・積立契約者数・積立件数ともに堅調な伸びを見せています。

【Yahoo!ファイナンスでの取扱開始前後の比較】

・投資信託口座数：35%増加

・投信積立契約者数：49%増加

・投信積立件数：67%増加

※前年同期（2020年3月末および2021年3月末）の比較

※1 投資信託（金融商品仲介業を除く）の取り扱いがある、三井住友銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 銀行、りそな銀行、埼玉りそな銀行、ソニー銀行、イオン銀行、PayPay 銀行で調査（PayPay 銀行調べ：2021年6月30日時点）。

PayPay 銀行は、「金融サービスを空気のように身近に」をミッションとして、目には見えないけれどなくては困る、気がつくと自然に使っている、そんな身近な金融サービスを目指し、取り組んでまいります。

PayPay 銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長（登金）第 624 号

加入する金融商品取引業協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会

投資信託の重要事項

投資信託は預金ではありません。したがって、投資信託は預金保険の対象ではありません。投資信託には、元本保証および利回り保証のいずれもなく、元本割れが生じるリスクがあります。お取引には所定の手数料等がかかります。ご購入の際には、約款および各ファンドの「目論見書（投資信託説明書）」、目論見書と一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご確認ください。このご案内は情報の提供のみを目的としており、投資または特定の商品を勧誘するものではありません。銘柄の選定など、投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。